

令和元年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

学校教育目標	豊かな人間力を備え創造力に富み、山形の未来をひらく社会的使命を自覚する、健康で実践力のある工業人の育成を期す。
--------	---

本年度の重点目標	1 明瞭で積極的な学校運営
	2 学習指導の充実
	3 生徒指導の充実
	4 進路指導の充実
	5 地域産業界と連携した工業教育の推進
	6 危機管理の徹底
	7 キャンパス制の推進

達成度	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

目指す学校像	(1)地域を愛し、地域に愛される学校 (2)一人ひとりの個性を生かし、工業の各分野で活躍できる将来のプロフェッショナルを育てる学校 (3)産業・社会の変化を捉えた教育活動を展開し、一人ひとりの進路が実現できる学校
目指す生徒像	(1)基礎・基本を身に付け、変化に対応できる工業技術者 (2)礼儀正しく、勤労意欲に富む生徒 (3)自己を理解し、自己実現に向かって努力する生徒 (4)豊かな感性と社会性、国際感覚を持つ生徒
目指す教師像	(1)使命感を自覚しプロ意識が高く、常に学び続ける教師 (2)生徒、保護者、地域社会から信頼される教師 (3)生徒の能力と個性を生かし、社会で活躍できるプロフェッショナルを育てる教師

自己評価						学校関係者評価
番号	評価項目	具体的方策（令和元年度）	主な数値目標	達成度	今年度の成果と課題 次年度に向けた課題と改善策など	意見・要望・評価等
1	学校運営	①「目指す学校像・生徒像・教師像」の実現に向けて、全職員・全生徒の共通理解の下、協働実践による明るく生き生きとした教育活動の実現を目指す。 ②開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域の連携を深める。 ③教職員一人ひとりが自己研鑽に励み、教員力の向上に努める。	・PTA関連の各種会議では出席率60%以上を目指す。 ・月1回はHP更新し、本校の情報を広く発信する。 ・全職員が参観できる授業研究週間を2週間設定し、教師の授業力を付ける。	B	行事毎にHPの更新やメール配信ができた。PTAの会議出席率は総会が目標値以下ながら、その他ではほぼ達成できた。今後、HP等での広報など工夫したい。また、学校評価の結果についてもHPとPTA新聞に掲載するなど開かれた学校に努めた。授業研究期間を設定し、互いの授業参観等により授業改善に取り組み、指導力向上に努めた。また、公開授業等に多くの教員が参加し指導力向上を図った。	・技術が刻々と発達する中であって、本校の目標として技術の習得は大事であるが、あくまでも人間に対する教育を施してほしい。 ・先生方は時間のない中でさまざまな教育活動を計画・実施している。働き方改革が叫ばれる昨今、どんな生徒を育てたいのかという目標のために、手段として何が必要なのか、有効なのかを考え、教育活動を拾取選択する時機が来ているのではないかな。 ・キャンパス制については発足当初と現在とではそのねらいが異なってきている。費用対効果を考え、今ある手段を考え直すことで目指す生徒の姿にさらに近づけるのではないかな。 ・キャンパス制のあり方については懐疑的である。 ・多くの、自尊心の低い小学生が中学校・高校へ進んで来る。生徒を輝かせてほしい。自信のない生徒を勇気づける、価値づけること。その手段を考えほしい。 ・工場見学や地元企業探究会のほか、西郡にある企業をもっと生徒に知ってもらう活動を。 ・スマホが発達してゲームのやりすぎ、依存が社会問題になっている。近頃の新人社員は食事中誰とも話をせず後はスマホのゲームばかりで自分の殻に閉じこもる。間もなく5Gの時代が始まり、スマホはますます便利になるが、その反面自分が管理されているような恐ろしさも感じる。そういう時代になるからこそ、心の問題を取り扱うことが大切である。 ・地元の人材を育てる、人間力を作ることが本校の役目である。課題研究発表会では盲目の人ための将棋盤製作の発表があった。特許申請をすれば特許に値する。実際の生活に役に立つテーマ。大手企業は利益の面から手を出さない。しかし、中小企業にはもってこの市場になり得る分野。大きなことでは評価されないまでも小さな部分で評価されることが大切でないかな。 ・挫折は誰にでもある。卒業しても悩みを打ち明けられる、相談に来れる学校であってほしい。 ・5Gの時代に向かって、また、新校舎建設に伴って、危機管理、個人情報の管理の徹底についてしっかりとした方策を立てていってほしい。
2	学習指導	①面白く、わかりやすい授業を工夫するとともに、主体的・探究的な学びに向けて授業改善を進める。 ②基礎学力定着、学力向上の取組みを充実させ、生徒の主体的な学習を促す。 ③言語活動、読書指導を充実させ思考力、判断力、表現力を高め、人間力豊かで国際的視野を持つ生徒を育成する。 ④資格取得の取組みを充実させ、技能検定合格者数40人以上を目指す。	・年間出席率99%以上を目指す。 ・生徒の授業満足度 3.0以上を目指す。 ・入学定員充足率100%を目指す。	B	授業評価や研究授業を活かして、各教科で基礎学力の定着、学力向上のための工夫に努めた。人間性豊かな生徒を育成するため、毎月の朝読書週間に取り組んだ。さらに、新聞を活用したNIE教育活動を実践し文章力が身についた。技能検定をはじめとする難関資格取得にも意欲的に取り組ませた。基礎学力を充実させるため、家庭学習の習慣化など生徒の学ぶ意欲を引き出す工夫が必要である。資格試験の合格率の向上と難関資格取得に挑戦する生徒の育成を図っていく。	
3	生徒指導	①生徒一人ひとりの規範意識と社会力を高め、家庭・地域及び関係機関との連携を密にして、問題行動やいじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ②キャリア教育の視点により、生徒一人ひとりの特性に応じた日常生活指導と教育相談活動等の充実を図る。 ③全国に発信できる「ものづくり」や研究活動、全国に挑戦できる部活動を推進する。 ④特別支援教育を推進して、組織としての対応と個に応じた支援体制を充実させる。	・問題行動「〇」、盗難「〇」をめざす。 ・いじめ「〇」、もしくは、早期解決100%を目指す。 ・各活動出席参加率100%を目指す。 ・部活動において東北・全国にも出場する。 ・交通重大事故発生件数「〇」を目指す。 ・生徒一人ひとり年3回以上のボランティア活動参加を目指す。	B	問題行動は、事故事案・問題行動は6件、盗難紛失破損は9件であった。いじめ認知に関しては、現在までに12件報告されている。担任・学年の速やかに対応で早期解決したものがほとんどであるが、長期化することもあった。今後も全職員で撲滅を目指す。生徒会活動は充実できた。部活動は弓道部が新人戦県団体個人の優勝、陸上部が東北大会個人出場し、工業研究部では3つ大会で上位入賞を獲得し目標達成できた。交通事故に関しては3件で、重大事故に関しては「〇」で目標達成できた。	
4	進路指導	①進路希望を高く持って、それを達成できる人材を育成する。 ②キャリア教育総合実践プログラムに基づき、計画的、組織的、継続的なキャリア教育の充実を図る。	・希望進路達成100%を目指す。 ・民間就職と進学の1回目での合格をそれぞれ80%、90%以上を目指す。	B	希望進路は100%達成できた。民間就職第1希望（1回目の受験）での合格率は86.4%、進学（第1希望）の合格率は91.7%であった。より効果的な指導を実践していきたい。	
5	地域と連携した工業教育	①資格取得に積極的に挑戦させ、知識、技術、高い専門性を備えた人材を育成する。 ②ものづくり教育の質を向上させると共に、新たな時代の要請に応え、地域の発展に貢献できる工業教育を推進する。 ③課題研究の充実を図り、課題研究校外発表会等を通して、主体的な課題解決能力と表現力を身につけられるように努める。	・各種資格取得に意欲的に挑戦し、技能検定では60%以上の合格率、および30名以上の合格者を目指す。 ・ものづくりコンテストや各種大会に参加し、県大会上位入賞を目指す。 ・課題研究では各科7つ以上のテーマで研究を行い、各科研究発表会を通して、取り組み内容を保護者や企業、地域の方々に知ってもらおう。 ・公開講座など地域に開かれた取り組みを各科1回以上実施し、専門分野の教育活動を広く地域にPRする。	B	技能検定前期 16/26(61.5%)、技能検定後期受験者 52名（結果待ち）。やまがた高校生ロボットコンテスト2連覇、ジャパニーズコンクーラー2020全国大会出場など、各種コンテストで活躍した。課題研究では各科特色ある主体的な探求活動を行い、保護者や地域企業の方々にその成果を発表した。次年度はキャンパス制を視野に入れた運営を目指す。地元の小学生を対象とした出前授業や体験教室を実施するなど、地域に根ざした教育活動を行った。	
6	危機管理	①防災意識の徹底、不審者への対応及び学校情報管理の理解と徹底を図る。 ②生徒・教職員の心と体の健康管理に努める。 ③公金等各種会計処理の適正に行う。	・避難訓練を年2回実施し、危機意識を高める。 ・救急対応に関する講習会として、2分野以上の企画をめざす。 ・心身の健康に関する講習会として、2分野以上の企画をめざす。 ・公金等執行状況報告に合わせ会計指導を実施する。	B	消防署の協力を得て、地震・火災を想定した避難訓練を2回実施し、生徒の危機意識を高めることができた。AED蘇生術の講習会を行い、緊急時の対応について、そのスキルアップに努めた。また、思春期講話やデータDV講話などを行いその啓蒙化に努めた。職員については健康診断結果から学校医との面談を行い、健康管理について意識の向上を図った。公金等の取扱いについては職員会議において支払遅延、精算遅延のないように喚起した。	
7	キャンパス制	①左沢高校と協力し、キャンパス制の連携・交流を充実させる。	・合同講演会を開催し、両校の交流を図る。 ・生徒会など生徒同士の交流を年2回以上行い、交流を深める。 ・互いの授業参観を2回以上設定し、教員の授業力向上を図る。	A	合同講演会は、両校の吹奏楽部による合同演奏会など交流があり有意義なものとなったが、来年度は両校で行っている研究の成果を相互で発表しあう会としたい。	

自己評価及び学校関係者評価の改善点、他	学校関係者評価委員の皆様から本校の取り組みに対する助言や温かい励ましをいただいた。今後も学校関係者評価委員会の充実を図り、いただいた助言等を学校運営に反映していきたい。
---------------------	--